

# 回答編

かいがん さけ まめずしき  
イコボヤ会館 - 鮭の豆知識クイズ



## もんだい 1 ~鮭の一生~

問いと答えを線で結んでみよう。

卵から赤ちゃんが生まれてくるまでにはどのくらいの期間が必要?	● オキアミ（プランクトンの一種）
鮭は川で生まれて海へ旅に出る魚。鮭の子どもたちが出発するのはどの季節?	● 約100日~半年
海にいる間の鮭のえさは何かな?	● 何も食べない
鮭は海でどのくらいの期間旅をしたら川に帰ってくる?	● 秋
鮭は卵を産むために川に帰ってくるよ。帰ってくる季節は?	● 約50日
川にいる間の鮭のえさは何かな?	● 春
	● 4年くらい
	● 水草

## もんだい 2 ~鮭は何魚?~

鮭の身の色といえばきれいなサーモンピンク。さて、鮭は赤身魚かな? 白身魚かな?

- A. 赤身魚      B. 白身魚

答え B. 白身魚

鮭の卵がふ化するまでにかかる期間は、水温を10℃前後に設定して約50日。毎日水温を計っていったその合計が480℃になった時に、鮭の赤ちゃんは生まれるといわれています。

鮭の稚魚は、春になると生まれた場所をはなれ、海へと旅立ちます。鮭の赤ちゃんを人間の手で卵から育てこの時期に川へと放流することで、成長して川へ帰ってくる鮭の数を増やそうという取り組みが、日本各地で行われています。

鮭は海にいる間、オキアミという、エビに似た形をした大きめのプランクトンの一種などを主に食べて育ちます。オキアミは赤い成分を持っている生物なので、これを食べる鮭の身も赤くなります。サーモンピンクの源は、オキアミの赤なのです。

鮭は、オホーツク海、北太平洋、ベーリング海、アラスカ湾などを旅して、約4年後に自分が生まれたふるさとの川に戻ってきます。なぜ鮭は遠い海から迷わずふるさとに帰ることができるのか、最新の研究でもその答えはまだ完全にはわかっていません。

鮭は秋になると卵を産むためにふるさとの川に戻ってきます。川へ入ってくる前の鮭を捕まえようと近くの海では鮭漁が盛んに行われ、お店には沢山の鮭が売られます。

川へ入った鮭の体は、産卵活動を行うためだけのものになっていき、えさは何も食べなくなります。そして産卵を終えた鮭は、次の世代に命を繋ぎ死んでいきます。

鮭は本来は白身魚です。海にいる間は赤いオキアミを食べているのでサーモンピンク色をしています。川に帰ってきて何も食べなくなるとえさから赤い成分が入ってこなくなるので、もとの白い身に戻ります。川でとった鮭がスーパーで売られることはないで、白い鮭をみんなが食べる機会はありません。

## もんだい 3 ~ 鮭の卵はイクラ ~

みんなはお寿司のイクラは好き？イクラは鮭の卵だね。

ところで、「イクラ」という言葉はもともと外国語がもとなった言葉なんだ。

どこの国の言葉かな？

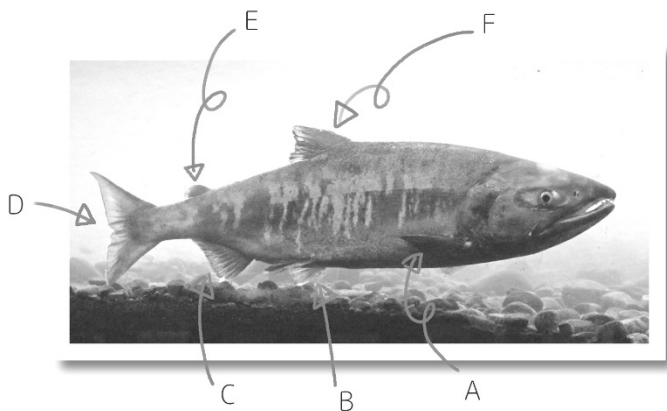
- A. 英語      B. 韓国語      C. ロシア語      D. フランス語

答え C. ロシア語

## もんだい 4 ~ 鮭の体 ~

① 魚の体には、何種類ものヒレがついているよね。みんなはそれぞれの名前を知っているかな？

鮭の体にあるヒレの名前を書いてみよう。



- A. 胸ヒレ  
 B. 腹ヒレ  
 C. 尻ヒレ  
 D. 尾ヒレ  
 E. 脂ヒレ  
 F. 背ヒレ

② このヒレの中で一つだけ、鮭の仲間についている特別なヒレがあるよ。

どれかわかるかな？

答え E. 脂ヒレ

せいさく 発行 / イヨボヤ会館



イヨボヤ会館は、新潟県村上市にある鮭の博物館です。  
 村上市は、「鮭のまち」として知られていて、鮭と人間が仲良く暮らしてきた長い歴史をもった町です。  
 鮭の憩いの源となるのが、市内を流れる三苗川。琴でも沢山の鮭がのぼってきます。  
 イヨボヤ会館は川のすぐそばに建てられていて、川の水中の様子を建物の中から見ることができます。  
 ほかに、三苗川にすむ生き物の水鏡展示などを行っていて、地域の川の自然を学べる博物館です。

※「イヨボヤ」とは、村上の方言で「鮭」という意味です。



©イヨボヤ会館

イクラはもともとロシア語で、「魚の卵」「小さくてつぶつぶしたのもの」という意味の言葉です。ロシアでは特に鮭の卵だけを呼ぶ言葉ではなく、魚の卵ならみんなイクラと呼びます。

明治時代に日本とロシアが戦争をした時、ロシアで鮭の卵がイクラと呼ばれているのを見た日本人が、真似して使い始めたのが最初と言われています。

それまでは鮭の卵は「はらこ」「ばらこ」「はらこご」という名前と呼ばれていました。

ちなみに日本では、鮭の卵でも一粒一粒ほぐしたものを「イクラ」、親のお腹の中から取り出したままの状態で膜につつまれたものを「筋子」といいます。

脂ヒレは、鮭を含むサケ科の仲間（マスやイワナ、ヤマメなど）が持っている特徴的なヒレです。とても小さなヒレですが、サケ科の仲間は背ヒレと尾ヒレの間に必ずこのヒレがあります。

鮭たちにとってこの脂ヒレがどんな役割をしているのか、詳しい部分は最新の研究でもまだわかっていません。